□議員名：中岡英二

１　２０４０年問題が本市に及ぼす主な影響と対策について

論点	山口東京理科大生や若者の市外流出抑制や、移住促進についての長期ビジョンはあるのか。
回答	第二次山陽小野田市総合計画後期基本計画において、人口減少対策は講じつつも協創の理念の下で、いかに持続可能なまちをつくるか、育てるかという観点で取り組んでいく。

論点	山口東京理科大生と市内優良企業とのマッチングビジョンや、理科大生の定住支援はあるのか。
回答	山口東京理科大生を対象に、市内企業を訪問する企業訪問ツアーを実施し、会社の紹介や工場見学、実際働いている社員の方との意見交換などを通じて、地元企業への理解を深めている。

論点	２０４０年以後の、新たな雇用の柱となる産業分野があるのか。また、企業誘致や支援策の長期ビジョンはあるのか。
回答	本市においてもＧＸ推進指針、またそのアクションプランを策定している。今後においては、小さなオフィスでも事業活動が継続でき、かつ市内には少ない業種、ＩＴ分野などの事業者を対象とした企業誘致の研究をしていく。

論点	後期基本計画の企業立地推進の４年間の目標で、未利用地の発掘やスモールオフィスにした業種の企業誘致の状況はどうか。
回答	未利用地の活用とは、企業が事業停止した後の工場の跡地が対象である。ＩＴ企業の誘致は、山口県企業誘致連絡協議会内のＩＴサテライトオフィス部会への加入を考えている。

論点	高齢化がピークを迎え、医療・介護人材が不足している中、市の地域医療体制・介護サービスの体制をどう維持していくのか。
回答	宇部・小野田医療圏地域医療構想調整会議などを通じて、本市の実情や市民の声を反映させて、実効性の高い対応をしていく。介護サ

	ービスの提供体制は、国や県との調整を図りながら、必要な介護サービスの計画を策定していく。

論点	交通空白地帯に一般ドライバーが自家用車で住民を送迎する公共ライドシェアを導入する考えはあるのか。
回答	今後は、利用需要や運行コスト、安全性、既存公共交通との調整、さらに利用しやすさという観点から、各地域に最も適した移動手段の在り方を研究していく。

論点	行政サービスの質の維持・向上させるために、窓口業務や内部事務において、ＡＩ・ＤＸをどのように導入し、活用していくのか。
回答	今後は、デジタルの分野に専門的な知識を有する職員の確保と育成をしていく。市が主体となりデジタル技術を活用し、地域課題の解決、市民の暮らしの質の向上を図っていく。